



津金 日人夢さん

●プロフィール
つがね・ひとむ。1993年、有田窯業大学を修了、御船窯で父貞機さんに師事。2001年、県美展に初出品で努力賞を受賞。以降、西部工芸展、西日本陶芸美術展など、受賞・入選多数。2007年、宮内庁が青瓷壺を買上げ。2008年、日本工芸会正会員に認定。御船地区。37歳

湯飲み一個からの陶器づくり

西部伝統工芸展入賞と県伝統的工芸品指定

独自の世界観で、陶芸「青瓷」の作風に挑み続ける、御船窯の津金日人夢さんに新たな勲章が加わりました。

6月に開かれた、第45回記念西部伝統工芸展（日本工芸会など主催）で、自由作品の部に出品の「青瓷鉢」が日本工芸会賞を受賞しました。

さらに同月、ビエンナーレ第28回西日本陶芸美術展（西日本新聞社主催）で、用の美・実用陶磁器部門に出品の「青瓷花鉢」が用の美大賞に選ばれて、ダブル受賞での栄誉が与えられました。

そして8月30日、県が30年以上の歴史ある県伝統的工芸品に、津金さんを含む14人を指定しました。御船町では初の指定で、異例の速さと若さでの名誉といえます。

「自分よりお客さんに喜んでもらえました。町の文化レベル向上につながれば嬉しい」と話す津金さん。現在、来年2月に横浜市で開催する個展の作品づくりに余念がない日々。「湯飲み一個でも、もってもらえるような作品を目指したい」と実用性重視の津金スタイルで勝負します。



津金さんが西部伝統工芸展で日本工芸会賞を受賞した「青瓷鉢」。縦49.0㌢、横60.0㌢、高21.5㌢(右)。

小田さんに県文化協会から贈られた荒木精之記念文化功労者のたて(左)。



文化芸術を次の世代へと継承

荒木精之記念文化功労者顕彰状受賞

県文化協会は9月6日、地域文化の振興で貢献した個人を顕彰する荒木精之記念文化功労者を発表し、小田正也さんを含む県内3人に顕彰状を授与しました。御船町での受賞は初めて。

小田さんは、昭和63年に文化協会への入会をかわきりに、町吟剣詩舞会長や町文化財保護委員などを歴任。平成8年には、町文化協会会長と、県文化協会理事に就任。会長を12年間務め、町や県の文化活動に尽力し、文化芸術の発展に寄与されています。平成20年にはその

実績が認められ、町文化協会名誉会長に就任された御船町を代表する文化人です。

「町には、『めがね橋』や『白壁』の文化財は無くなったが、有形無形の文化財が数多く残っている。そういったものを学校の学習の場で取り上げ、郷土に残された遺産を大切にしてもらいたい。そして、若い世代にも文化活動に入ってもらえれば」と文化への思いを語る小田さん。御船が誇る文化界の巨匠は、豊富な経験と武器に町の文化をこれからもけん引します。



小田 正也さん

●プロフィール
おだ・せいや。教員生活39年。1988年、御船町文化協会に入会。1994年、同文化協会副会長に就任。1996年、同文化協会会長に就任。2002年、上益城郡吟剣詩舞連合会長に就任。2008年、同文化協会名誉会長に就任。木倉地区。84歳

御船は、江戸時代後期から明治、大正、昭和初期まで

県下第一を誇る「酒造りの町」として栄え、熱気を帯びた町だった。

その活気と繁栄の象徴と言えるのが御船川沿いの「白壁の酒蔵」だ。

御船川沿いには石垣の並ぶ「酒蔵」が多く存在していたという。

しかし今では、その面影すら残っていない――

昭和の不況、企業統合などが影響して次々と姿を消した。

「酒蔵」で造られていた日本酒の香りと深い味わい

御船の人が愛してやまなかった「白壁」の町並みとは。

今月号は、「白壁」の歴史を振り返りながら

記憶の奥底に今も眠る、あの時代を追懐する――

白壁 (前編)

写真／昭和54年3月、御船川新橋河原の川遊び風景